

会話内容を手話通訳映像や字幕に変換しシースルー型 AR グラスにリアルタイムで投影する新形態の補聴器の開発

実は、難聴者は補聴器を装着しても、ある程度の音を聞くことはできるようになるが、人の声を聞き取ることは難しい。これがデジタル補聴器の開発が始まった150年前から変わらない課題である。そこで、会話内容を文字や手や通訳映像に変換し、シースルー型 AR グラスに投影する補聴グラスの開発を発案しました。